

選ばれ続ける薬剤師になるために

～薬のプロだからこそ、降圧治療に貢献できること～

後編



座長 久留米大学医療センター副院長 / 循環器内科 教授
甲斐 久史 先生



講師 横浜市立大学附属 市民総合医療センター 薬剤師
菊池 雄一 先生

2018年3月2日、“薬剤師が降圧治療に貢献できることは何か？”をテーマにWebカンファレンスが行われました。前編では、本邦の高血圧治療の現状と、降圧治療のポイントである“厳格な降圧”と“血圧変動の抑制”といった観点からCa拮抗薬について考察しました。後編では、Ca拮抗薬について、その特徴を振り返るとともに、降圧治療における第3のポイントとなる“服薬タイミング調節”についてご紹介します。

Ca拮抗薬処方時の服薬指導のポイント

Ca拮抗薬のなかでもジヒドロピリジン系は一般的に降圧効果が強く、多くの症例において第一選択薬であり、糖・脂質・電解質代謝に悪影響を及ぼさないという特徴もあります。Ca拮抗薬が処方された場合に、薬剤師が注意すべきポイントとして(図1)、ジギタリス製剤やβ遮断薬、CYP3A4阻害作用のあるトリアゾール系抗真菌剤などの併用があります。グレープフルーツなどCYP3A4阻害作用のある食品の摂取も同様に注意が必要です。また、患者さんが入れ歯に違和感を持つ場合は、副作用として歯肉肥厚が生じている可能性がありますので、入れ歯や口腔内の状態を伺ったうえで、歯茎をきちんとブラッシングするよう注意を促す場合もあります。

“服薬タイミング調節”による血圧コントロールの実現

脳心血管イベントは午前中に起こることが多く^{1,2,3)}、降圧治療では、早朝の血圧コントロールに注目した“服薬タイミング調節”が重視される場合もあります。ARBとCa拮抗薬を朝に服薬しても血圧コントロー

ル不十分な患者さんを対象に、早朝高血圧の抑制効果を検討した試験⁴⁾では、朝にARB、就寝前にアダラート®CR錠20mgを服用した群は、朝にARB、就寝前にアムロジピン5mgを服用した群と比較して、有意に早朝収縮期血圧が低下しました(図2, p<0.01, 対応のあるt検定)。このように、服薬するタイミングを調節することで得られる降圧効果もあります。“服薬タイミング調節”により、服薬時間が変更になった患者さんには、「先生は、朝の血圧をもう少し下げるために夜の服薬に変更されたようですね」などと服薬タイミングが変更された理由もお伝えすることが大切です。

また、試験で用いられたアダラート®CR錠は、長時間作用が持続するように製剤学的に工夫が施され

ています。溶出速度の異なる外層部と内核錠の2層構造になっており、胃や小腸上部では外層部からゆっくりと、消化管下部では内核錠からすみやかにニフェジピンが溶出することで、24時間にわたり有効血漿中濃度が持続します(図3)⁵⁾。そのためアダラート®CR錠が処方された患者さんには、外側がゆっくり溶けて内側が速く溶ける構造になっていることで降圧効果が1日中続くことをお伝えしたうえで、噛み砕いたりミキサーで粉砕したりせず、そのまま水で服用するよう指導します。

薬剤師としてのスキルを活かして

徐放製剤など血中濃度を一定に保つよう工夫された薬剤などでは、

図1 Ca拮抗薬の副作用・相互作用に関するチェックリスト

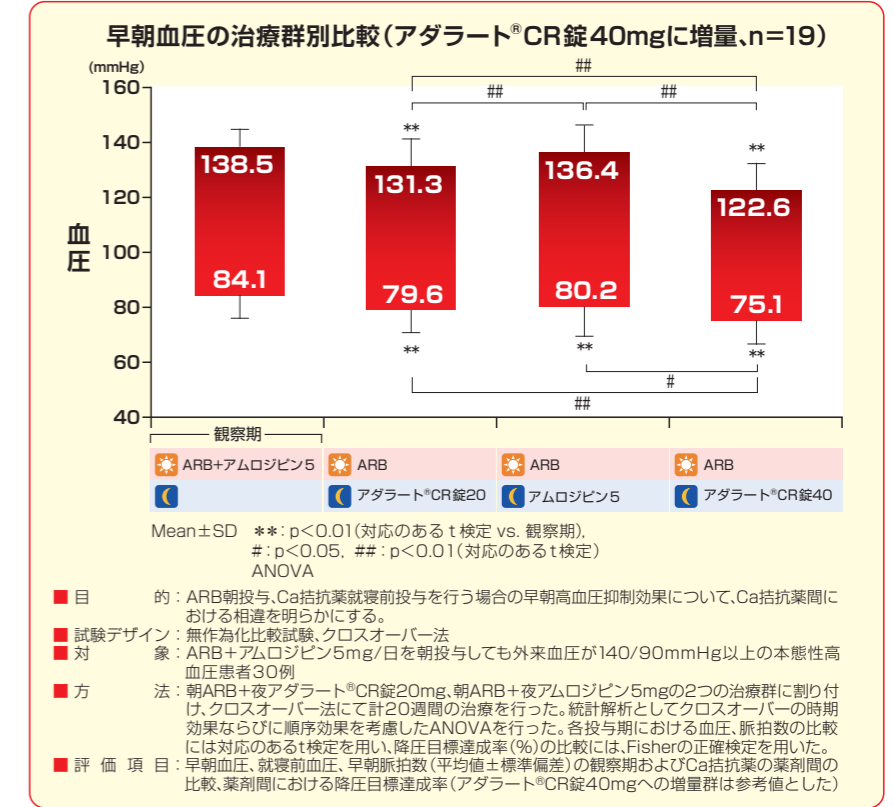
- ジギタリス製剤が併用されていないか？
- CYP3A4阻害作用のあるもの(グレープフルーツジュースやトリアゾール系抗真菌剤など)と併用されていないか？
- 顔面のほてりや頭痛、動悸などが出ていないか？
- 歯肉肥厚や浮腫が出ていないか？
- 非DHP系Ca拮抗薬とβ遮断薬が併用されていないか？

菊池 雄一 先生監修のもと作成

徐放製剤の特徴を踏まえた丁寧な服薬指導が重要です。また薬剤の切り替えについても、製剤学的特性を理解している薬剤師による慎重な対応が求められます⁶⁾。

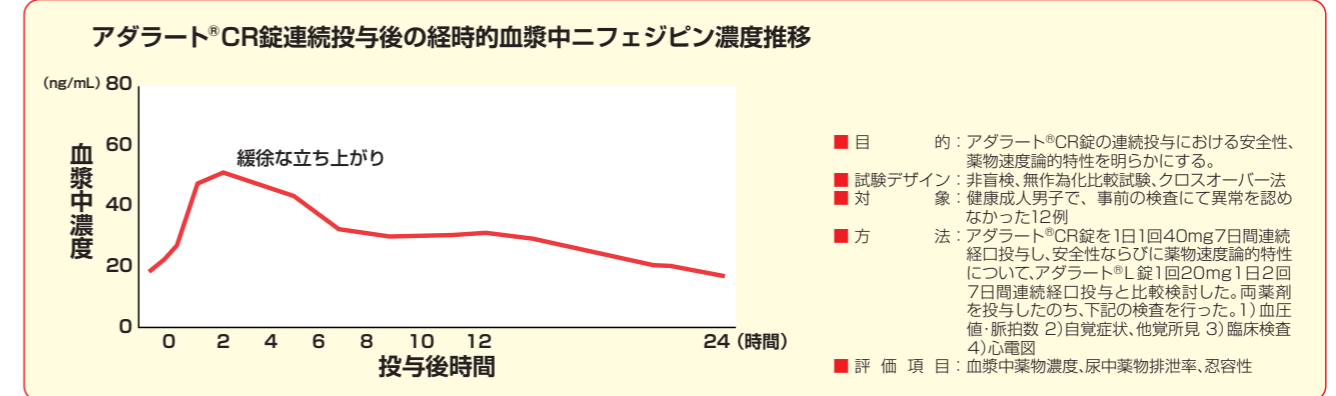
薬物治療の適正化を図るためには、われわれ薬剤師が専門性を活かし、患者さんの服薬を積極的にサポートすることが必要です。患者さんの半数以上がコントロール不十分である高血圧の治療において、薬剤師には、相互作用を確認したり、副作用への対応や服薬上の注意事項を指導するなど、薬理学や製剤学といった“薬剤師ならではの”ポジションから降圧治療を支えていく姿勢が求められているのではないのでしょうか。

図2 服薬タイミング調節による厳格な早朝血圧コントロール



宮川政昭, 血圧 2008; 15: 1089-1094. より引用・改変

図3 ニフェジピン徐放錠投与後の血漿中濃度の推移



中道 昇他, 薬理と治療, 23, s257-s269, 1995. より引用・改変

甲斐先生コメント

医師からの説明に加えて、薬理作用や体内動態、製剤学などを理解している薬のプロである薬剤師からも降圧の重要性について補足することにより、患者さんは降圧治療を深く理解できると思います。それは、患者さんの降圧治療に臨む姿勢を好転させ、服薬アドヒアランスの向上にもつながります。最近では、薬剤師が高血圧患者さんへ服薬指導を行う際に利用できるツールもありますので、そうしたツールや本カンファレンスの内容を参考にさせていただき、薬剤師の専門性を積極的に降圧治療に活かしていただきたいと思います。

* Adalat.jpでは薬剤師の先生向けの服薬指導ツールがダウンロード可能です。

薬剤師の先生向け服薬指導ツール

「循環器病を防ぐ！
高血圧治療とお薬について」は、
Adalat.jpよりダウンロードまたは
リングファイル版の請求が可能です。
是非ご活用ください。



ダウンロード版 リングファイル版

こちらのQRコードから
アクセスしてください。

